

1 開催日時：2016年12月10日(土) 午後1時半～5時半

開催場所：大阪府議会会館

参加者：20人

2 議事内容

(1) 報告『選挙が自治を育てる～月形町選挙からの考察～』（宮下裕美子会員）

- ・9月に町長選挙を経験して、「選挙が自治を育てる」という確信を得た。
- ・縁もゆかりも無い「よそ者の女性候補者」と「公約を設けない候補者」との一騎打ちとなり、「政策選択選挙」とはならなかった。
- ・子ども・若者政策として「無利子奨学金の創設」など、10の政策を集めて政策集を発表した。当初は驚きだったが、次第に理解が進んだように思えた。
- ・後援会組織が弱い状況だったが、次第に議員活動で仲良くなったお婆ちゃんグループなど、これまでの活動の中で積み上げた人脈が大きな力となってくれた。
- ・今回の町長選挙を通して、たくさんの「自治の種」が播かれたが、「愚直さが“道”を拓く」ことを強く感じた。価値ある選挙だった。

(2) 報告『地方議会改革を踏まえた議会（事務局）研究「論」の課題（デッサン）』（江藤俊昭会員）

① 地方議会との出会いと私の研究課題

『協働型議会の構想』（2004年）と改革議会との接点から、最近では、議会改革の第2ステージ、市民・主権者教育の問題へ

② 従来の議会事務局論

加藤幸雄、野村稔の論の説明

③ 私の議会事務局論

従来の議論への違和感から新たな議会を踏まえて「議会局論」を考える

議会の役割の変化、ミッション、5つの機能など新たな役割、新たな関係、意識改革や議会局の位置付けなど制度的保障へ

④ 今日の議会事務局論の到達点—『議会事務局はここまでできる』を読む

議会局論の初であり、多くの執筆者による共著などに意義があるが、著書の構成、なぜミッション論が最後、「議会(局)を主語の特性がでない。車の両輪論、協働の考え方、「住民とのかけ橋」の位置、「軍師」の関係など、議論すべき課題が多い。

⑤ 新たな議会事務局論の課題と体制

今後、新たな議会事務局論を構築していきたい

■所感■

今回は江藤俊昭教授の講演（報告）がメイン。2か月に1度程度お出合いし、著作も読んでいたので、特に目新しい報告は無いように感じたが、著作等を読んでいないと話が飛ぶので分かりづらいただろうな、とも思った（失礼）。

議会と議会事務局は車の両輪とか協働というのはおかしいという論もよくよく聞いてみると納得はできる。つまり同じ機関で「車の両輪」も「協働」も無いだろうという話である。議会と事務局は一体という意味か。しかし通常の職員と違って、事務局職員は議長の補助機関では無い。地方自治法を杓子定規に読めば、議長は事務局職員の任命権者だが、議長が命を出せるのは事務局長のみである（第138条の7）。ならば、協働という言葉は使ってもいいような気がする。このあたりの事務局論は今後の課題か。

多くの先進的地方議会には、有能で有名な事務局職員が必ずいる。改革度ランキング1位の芽室町議会には西科氏（現在は事務局から離れてはいるが）、2位の大津市議会には清水氏のように。古くは三重県議会に高沖氏、栗山町議会に中尾氏がいたように。議会の充実とはすなわち事務局の充実でもあるし、どちらが先とは言えないが、どちらが欠けても議会改革は進まないだろう。そのような気がする。

現在の西脇市議会に欠けているものは、多いが（苦笑）決定的に欠けているのは牽制機関としてのチェック能力である。政策提案（という名の単なる要望が多いのだが）のように華やかでは無いけれど、本来の議会の果たすべき役割がほぼ機能していないように感じる。このサポートを事務局では力の配分を多めに考えてもらえればなあ、と思っている（執行部からは嫌な顔をされるだろうが）。西脇市議会の審議レベルが2年くらい前に北播磨最低レベルと新聞記者から評されたが耳にしたが、あれから2年経っても大して変わってはいないと感じている。これを何とか打開したいものだ。

元月形町議員の宮下氏の話は、選挙をするものとしては興味深く聞かせてもらった。政策を前面に打ち出した町長選だったが、組織の壁には敵わなかったという話だったが、田舎に行けばいくほど、そういうものなんだろうなあ、とも思う。

議会の役割が大きくなっていくにつれ、議会事務局の役割も大きくなる。議会改革など議会事務局のサポートが無いと前に進むはずもない。西脇市議会事務局も少人数のハンデはあるものの頑張ってくれているので、それに応える議会議員でないと結局有能さも活かしきれず宝の持ち腐れとなる。我々議員が結局その資質を問われているように、本研究会に行くたびに思われる。